流灯まつり 舞台裏レポート

準備開始（5月中旬～）

灯ろうに設置する
浮き台（1本約2m）を500本用意

地元建具店が灯ろうの
骨組みとなる木材を加工

木材は、
杉戸町と交流のある
神川町産を使用！

組立て（5月下旬～）

行政区等の
住民ボランティアが
木枠を組立て

釘を使わない
伝統的な手法！

紙張り（6月下旬～）

木枠に絵や協賛企業・
団体名の紙を張り、ようやく
見慣れた灯ろうの形に！

灯ろうの大きさは
たたみ一畳分！

絵描き（6月上旬～）

絵師ボランティアが
版画に色付け
オリジナルイラストも制作

250基の灯ろうに
張る絵は500枚！

イカダ係留（7月中旬）

中間地点にイカダを設置し、
ここから上流と下流の
灯ろうをつなぐ

係留作業（7月下旬）

今年は7月29日㈬予定

灯ろうに浮き台を固定し、古利根川に係留
地元電気工事組合が電球を取り付け

ボランティア、
商工会会員、役場・
友好都市富岡町職員等
のべ70人以上が集結🔥

ボランティア
募集中です！
やってみたい方は
観光協会（32-3719）
まで📞

完成！

杉戸ボートクラブが
上流から順に灯ろうを
5基ずつ連結

Interview

杉戸町観光協会 会長
杉戸町商工会 会長
鈴木 豊 さん

まつりをみんなで育てていくために、特に大事なことは？

住民やボランティアの協力です。本当にたくさんの人の協力で成り立っています。また、協力いただくことによって、自分たちのお祭りだと意識できるので、当日がもっと楽しみになりますよね。

ここだけは絶対に見てほしいというポイントを教えてください！

現在は遊歩道ができ、安全に川辺まで下りられるようになったので、手が届きそうなほど近くから見られるようになりました。色々な角度から楽しんでほしいですね。ただ、灯ろうの光は昔と変わりません。今住んでいる方も、杉戸を離れた方も、ふるさとの記憶として心に留めていただけたら嬉しいです。ぜひお越しください。

インタビュー完全版
（町ホームページ）

絵描きの様子

町公式Instagram
Follow me!
舞台裏レポート動画公開中！
流灯まつり当日はライブ配信予定！

特集
流灯まつりを支える人たち

杉戸の夏の風物詩、『古利根川流灯まつり』がどのように作られているかご存知ですか？
意外と地道な、「地上に降りた天の川」の裏側を紹介します。

地域の力を合わせて

古利根川流灯まつりは、昭和初期に始まりました。杉戸町・宮代町の商店会が協力し、それぞれの店が工夫を凝らした灯ろうを大落古利根川に浮かべる、店のPRを兼ねたイベントでした。

その後、一時中断していましたが、町民の中で「何か特徴のあるイベントで町おこしを」という気運が高まり、杉戸町の「本町昭和会」（駅前商店会の有志）が中心となって、平成2年（1990年）に復活しました。

現在では、「古利根川流灯まつり実行委員会」が中心となって、毎年準備を進めています。

今も昔も、地域の力を結集して開催しているのが、古利根川流灯まつりの大きな特徴です。

▲昭和10年頃、古川橋から撮影。
当時は灯ろうの形が様々。